

「第 50 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 3 年 6 月 17 日（木）13 時 00 分
都庁第一本庁舎 7 階 特別会議室（庁議室）

【危機管理監】

それではただいまより、第 50 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日も感染症の専門家といたしまして、新型コロナタスクフォースのメンバーでいらっしゃいます、東京都医師会副会長の猪口先生。

そして、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます、大曲先生。

そして、東京 i CDC 専門家ボード座長でいらっしゃいます賀来先生にご出席をいただいています。

よろしくお願いいたします。

なお、武市副知事、宮坂副知事、他、全八名の方はウェブでの参加となっております。

よろしくお願いいたします。

それでは、早速でございますが議事に入りたいと思います。

まず「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、「感染状況」について大曲先生からお願いいたします。

【大曲先生】

それではご報告いたします。

「感染状況」でございます。

今回ですけれども、赤としておりまして、感染の再拡大の危険性が高いと思われるしております。

新規の陽性者数は下げ止まっております。新規陽性者数の増加比が今後 100%を超えることが強く懸念されるという状況です。

これまで以上に、人流の増加の抑制、基本的な感染防止対策を徹底し、感染の再拡大を防止しなければならないとしております。

それでは、詳細について述べて参ります。

まず、①「新規陽性者数」でございます。

新規の陽性者数 7 日間平均でございますけれども、前回は約 389 人で今回は約 376 人ということで、依然として高い値で推移をしております。

増加比を見ていきますと、前回は 80%、今回は約 97%ということで上昇しております。

新規陽性者数ですが、前回と比べ横ばいであり、下げ止まっています。

一方、増加比は前回と比べて上昇しており、今後 100%を超えることが強く懸念されます。新規陽性者数が十分に下がり切らないまま、いまだ高い値で推移しております。

第 3 波では、新規陽性者数が今回とほぼ同じ 400 人前後で約 3 週間推移した後、爆発的に感染が再拡大しました。

感染性の高い変異株の影響等を踏まえますと、第 3 波を超える急激な感染拡大の可能性があり、新規陽性者数を徹底的に減らし、感染の再拡大を防止しなければなりません。

6 月 10 日時点で、都内の主要繁華街における夜間滞留人口及び、昼間の滞留人口はともに増加し続けております。

東京 i CDC の専門家は人流増加が続いている影響で、再び感染拡大へと転じる可能性が高く、強い警戒が必要と報告をしております。

都では、N501Y 変異を持つ変異株よりもさらに感染性が高いとされ、海外で増加している L452R 変異を持つ変異株のスクリーニング検査を実施しております。

6 月 16 日時点で、43 件の陽性例が報告されております。

都のスクリーニング検査を経ていない、国立感染症研究所のゲノム解析で判明した 29 例を加えますと、合計は 72 件でございます。

海外の状況を鑑みますと、急速に変異株 L452R への置き換わりが進むことも想定されま

す。感染状況を早期に把握するため、都は、監視体制の強化に着手しております。

ワクチン接種ですけれども、発症及び重症化の予防効果の他、感染リスクを軽減する効果が期待されています。

都は、区市町村、東京都医師会等とともにワクチンチームを立ち上げ、まず、医療従事者、重症化しやすい高齢者層からワクチン接種を始め、順次対象を拡大して接種を行うための準備を進めています。

都は、ワクチンの接種を一層加速するため、6 月 8 日に開設した東京都築地ワクチン接種センターに続き、2ヶ所目の大規模ワクチン接種会場となる、都庁北展望室ワクチン接種センターを 6 月 18 日に開設します。

東京都医師会、東京都歯科医師会、東京都薬剤師会、東京都看護協会等と連携、協力し、さらにワクチンの接種を推進していきます。

医療機関ですけれども、多くの医療人材をワクチンの接種に充てています。

都は、退職した医師等、医療機関で従事していない人も含め、ワクチンの接種に協力すると申請した医療従事者の情報を登録し、ワクチン接種のための求人情報を登録者に提供する「東京都新型コロナウイルスワクチン接種人材バンク」を立ち上げ、ワクチンの接種体制の強化を進めております。

次、①-2 に移って参ります。

年代別のデータでございます。

今回は、一番右端に示してございますが、20代から40代の割合が依然として高く、新規の陽性者全体の約69%を占めております。

中でも、20代の占める割合は約33%と、年代別で見ると最も高い状況です。

第3波では、若年層の感染者数の増加から始まりまして、重症化しやすい高齢者層へ感染が広がりました。

若年層を含めたあらゆる世代が感染によるリスクを有しているという意識をより一層強く持つよう、改めて啓発する必要があります。

次、①-3に移って参ります。

新規の陽性者数に占める65歳以上の高齢者数でありますけれども、前週が251人、今週は181人でありまして、減少しております。割合も低下しております。

7日間平均ですが、前回は1日当たり約31人、今回は1日当たり約26人でありまして、減少しております。

病院、有料老人ホーム、通所介護の施設等で、クラスターが複数発生しています。

高齢者層への感染を防いでいくためには、家庭外で活動する家族、医療機関や高齢者施設で勤務する職員が、新型コロナウイルスに感染しないことが最も重要であります。

都は、感染対策の支援チームを派遣し、施設を支援しています。

また都は、精神科病院及び療養病床を持つ病院、高齢者施設や障がい者施設の職員を対象に、定期的なスクリーニング検査を行っておりまして、これにはより多くの施設が参加する必要があります。

高齢者層は重症化リスクが高く、入院期間が長期化することもあり、本人、家族及び施設等での徹底した感染防止対策が引き続き必要でございます。

次、①-5に移って参ります。

今週の濃厚接触者における感染経路別の割合でございますけれども、同居する人からの感染が52.2%と最も多かったという状況です。

次いで、職場での感染が19.1%、会食による感染が8.3%、施設及び通所介護の施設での感染の割合が5.6%ございました。

濃厚接触者における施設での感染者数、こちらは前週から減少し、その占める割合も低下しております。

年代別に見ますと、10代未満では前週の28.1%から17.1%、10代では前週の31.2%から11.4%に低下しております。

一方、6月3日から9日までに報告された、新規の陽性者数における同一感染源からの2例以上の発生事例、これを見ますと、職場での発生が13件と最も多かったという状況です。

今週も職場、施設、会食といった多岐にわたる場面での感染例が発生しております。

感染に気づかずにウイルスが持ち込まれている可能性があります。

手洗い、マスクの正しい着用、これは、顔との隙間を作らないよう密着させるということが重要であります。そして3密の回避、換気等の基本的な感染防止対策を徹底して行うこ

とが必要でございます。マスクに関しては不織布マスクの着用が望ましいです。

感染経路別に見ていきますと、80代以上における施設等での感染の割合が、依然として40.7%と高い値で推移しております。高齢者への感染拡大に警戒が必要でございます。

職場での感染ですけれども、19.1%であります。前週の19.5%から横ばいでありました。

また、6月3日から9日までの報告では、小規模でありますけれども、13件の複数発生事例が見られています。

職場での感染を減らすには、事業者によるテレワークや時差通勤の一層の推進、大都市圏との往来や出張等の自粛、オンライン会議の活用等、3密を回避する環境整備等に対する積極的な取組が求められます。

また事業主に対して、従業員が体調不良の場合には、受診や休暇の取得を積極的に勧めるよう啓発する必要がございます。

一方、保育園、専門学校等、学校関連の施設での感染例も散見されています。

部活動、学校行事を含む学校生活における基本的な感染防止対策の徹底が望まれます。

学校関係者におきましては、基本的な感染防止対策を徹底するとともに、時差通学、オンライン授業等の取組が求められます。

会食でございますが、8.3%ということで、前週の6.9%から上昇しております。

たとえ野外であっても、公園や路上での飲み会、バーベキュー等、会食では、マスクを外す機会が多くなります。自宅や友人宅等で会食をして感染する事例もあります。

会食は感染するリスクが高いこと、これは繰り返し啓発する必要がございます。

次、①-6に移って参ります。

今週の新規の陽性者2,595人のうち、無症状の陽性者が360人です。割合は13.9%でありました。

無症状、そして症状の乏しい感染者の行動範囲が広がっている可能性があります。

症状がなくても感染源となるリスクがあることに留意する必要がございます。

次に、①-7に移って参ります。

保健所ごとのデータですけれども、保健所別の届出数、今週見ますと、新宿区が212人と最も多く、次いでみなとが180人、次いで世田谷が165人、その次が多摩府中で148人、次に大田区139人の順でございました。

①-8に移って参ります。

都内の保健所のうち、約26%にあたる8の保健所で、それぞれ100人を超える新規の陽性者数が報告されております。高い水準で推移をしております。

次に、①-9に移ります。

これを人口10万人当たりで見ますと、右側に見られます、区部の保健所が色が濃くなっておりますが、ここにおいて高い数値で推移をしております。

都は、保健所と連携して積極的疫学調査を充実して、クラスターを早期に発見する対策を行っています。

保健所単位を超えた都全域のクラスターの発生状況の実態把握を進めているところがございます。

次、②に移って参ります。

「#7119における発熱等相談件数」ですが、7日間平均は、前回の57.0件から、今回64.9件で、増加しております。

7日間平均ですけれども、依然高い水準で推移しておりまして、引き続き注意が必要です。

一方、都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均ですけれども、前回の約1,082件から、今回は1,022件であります。依然として高い値で推移しております。

次、③に移って参ります。

「新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比」でございます。

接触歴等不明者数ですけれども、7日間平均で前回の約238人から、今回は約239人と横ばいでございます。

接触歴等不明者数ですが、前回と比べ横ばいでありまして、下げ止まっております。

感染経路が追えない潜在的な感染拡大が危惧されます。

職場や外出先等から、家庭内にウイルスを持ち込まないためにも、普段から手洗い、マスクの正しい着用、そして3密の回避及び換気等、基本的な感染防止対策を徹底して行う必要がございます。

次に③-2に移って参ります。

こちらの方の増加比を見ていきますと、6月16日時点で約100%でございました。増加比約100%となっております。

前回は約83%でありましたので、上昇しています。

第2波及び第3波でも、増加比は80%前後から上昇に転じております。

第3波では増加比が100%を超えて、緩やかな上昇傾向後に急激に感染が再拡大したことから、これは警戒する必要がございます。

感染の再拡大を回避するためには、増加比を低下させる必要がございます。

そのために、これまで以上に人流増加を抑制するとともに、感染防止対策を徹底することが必要でございます。

次、③-3に移って参ります。

今週の新規の陽性者に対する接触歴等不明者数の割合であります。前週は約60%、今週が約64%でありまして、やや上昇傾向にございます。

年代別に見ていきますと、20代から50代で60%を超えております。

10代以下を除くすべての年代において、接触歴等不明者の割合が50%を超えております。

20代から40代で見えていきますと、70%に近い割合でございます。

これを見ますと保健所の積極的疫学調査による接触歴の把握が困難な状況が続いていると思われまます。

その結果として、接触歴等不明者数及びその割合も高い値で推移している可能性がござ

います。

学校や高齢者施設等で新規陽性者が発生しますと、同じ地域内に感染者が集積して、さらにその周辺に感染が拡大する恐れがあります。

ですので、こうした施設における感染状況をいち早く把握し、速やかに濃厚接触者の検査を行う体制を強化することが必要であります。

私からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生からお願いします。

【猪口先生】

はい。

医療提供体制は赤、通常の医療が大きく制限されていると思われる。医療機関は依然として新型コロナウイルス感染症への対応に追われており、負担が長期化しております。

重症患者数は減少しておりますが、また新たな発生も続いております。再び増加に転じれば、医療提供体制の逼迫を招く、としております。

左側の矢印を見ていただきたいんですが、感染状況と比べまして、まだ右、下に向いております。

医療提供体制は1週間ぐらい遅れて参りますので、この状況ですが、将来的にですね、また上向きになるという、そういう印象を持っております。

では、「検査の陽性率」です。

前回の4.3%から4.1%とやや低下いたしました。

また、7日間平均のPCR検査等の人数は約6,850人から約6,646人で、ほぼ横ばいでありました。

新規陽性者数がわずかに減少したことから、陽性率は低下しております。

⑤です。「救急医療の東京ルール適用件数」です。

7日間平均は、前回の46.7件から39.1件に減少したものの、依然として高い値で推移しております。

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前と比較して高い水準であることから、まだ救急に関しては油断ができません。今後の推移を注視する必要があります。

⑥「入院患者数」です。

前回の1,626人から、6月16日時点で1,346人に減少したものの、依然として高い値で推移しております。

陽性者以外にも、陽性者と同様の感染防御対策と、個室での管理が必要な疑い患者、この疑い患者さんを都内全域で約167人、1日当たり受け入れております。

医療機関は、限りある病床の転用や医療従事者の配置転換等により、約1年半にわたり、新型コロナウイルス感染症患者の治療に追われております。

現在、大曲先生のお話にもありましたけれども、ワクチン接種に多くの人材を充てていることから、負担が増しております。

変異株N501Yよりもさらに感染性が高いと言われる変異株L452Rによる感染拡大が懸念されております。

急激な新規陽性者数の増加による医療提供体制の逼迫が危惧されます。

都は、重症用病床373床、中等症等用病床を5,221床、計5,594床を確保しております。

都が要請した場合、新型コロナウイルス感染症患者のために、最大限転用しうる病床として、6,044床を確保しております。

⑥-2です。

入院患者の年代別割合は、60代以下の割合が約69%でありました。

現在、60代以下の入院患者数の割合は、緩やかな上昇傾向にあります。

6月16日現在、50代が最も多く全体の約17%、次いで40代も約17%でありました。

あらゆる世代が感染によるリスクを有しているという風に意識を強く持ち、人と人との接触の機会を減らし、基本的な感染防止対策、環境の清拭・消毒を徹底するよう啓発する必要があります。

⑥-3です。

検査陽性者の全療養者数は、前回の3,739人から、6月16日時点で3,402人と減少いたしました。依然として高い水準であります。

内訳は、入院患者、前回は1,626人から1,346人、宿泊療養者が前回767人から今回778人、自宅療養者が835人から681人、調整中が511人から597人となっております。

宿泊療養の方が増えているのが特徴的であります。

全療養者に占める入院患者の割合は、40%前後で推移しております。

また、宿泊療養調整本部で一括して宿泊療養対象者の聞き取り調査を行う等の取組を推進したことにより、調整作業が効率化し、宿泊療養者の割合は、6月16日時点で、約23%に上昇しております。

東京都新型コロナウイルス感染者情報システムを活用し、「療養／入院判断フロー」による安全な宿泊療養を推進する必要があります。

今後の大幅な感染拡大に備え、入院医療、宿泊療養及び自宅療養の体制維持と、充実強化を図る必要があります。

都は、6月17日に宿泊療養施設を新たに1ヶ所、本日でありますね、本日1ヶ所開設して、現在14ヶ所を確保し、療養者の安全を最優先に運営を行っております。

現在、新規陽性者数の急激な増加に対応できるよう、職員の配置や、搬送計画の見直し等を行い、宿泊療養施設の効率的な運営に取り組んでおります。

⑦「重症患者数」です。

重症患者数は、前回の 57 人から 45 人に減少いたしましたものの、依然として高い値で推移しております。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者さんは 24 人、人工呼吸器から離脱した患者さんが 26 人、人工呼吸器使用中に死亡した患者さんが 10 人でありました。

6 月 16 日時点で、集中的な管理を行っている重症患者に準ずる患者さんは、人工呼吸器または E CMO の治療が間もなく必要となる可能性の高い患者さんが 215 人、離脱後の不安定な状態の患者さんの 57 人、合わせて 272 人です。

重症患者数は減少しておりますが、新たな発生も続いており、いまだ警戒すべき水準にあります。

都は、重症患者及び重症患者に準ずる患者の一部が使用する病床を、重症用病床として現在 373 床確保しております。

国の指標における重症患者のための病床は、重症用病床を含め合計 1,207 床です。

今週、人工呼吸器を離脱した患者の、装着から離脱までの日数の中央値は 9.5 日、平均値は 14.5 日でありました。

新規陽性者の約 0.9% が重症化し、人工呼吸器または E CMO を使用しております。

⑦-2 です。

6 月 16 日時点の重症患者数は 45 人で、年代別内訳は 40 代が 3 人、50 代が 3 人、60 代が 14 人、70 代が 22 人、80 代 2 人、90 代が 1 人でした。70 代の重症患者数が最も多かったです。

性別では、男性 36 名、女性 9 名でありました。

60 代以下の占める割合が約 44% と、依然として高い状況にあります。

今週報告された死亡者数は 48 人。

6 月 16 日時点で累計の死亡者数は 2,183 人となっております。

⑦-3 です。

新規重症患者数の 7 日間平均は、約 3.7 人から 6 月 16 日時点の約 3.1 人となりました。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は 24 人であり、重症患者の約 53% でありました。

新規陽性者数が減少傾向にある一方、重症患者及び重症患者に準ずる患者数はまだ高い値で推移しております。

陽性判明日から人工呼吸器の装着日までは平均 5.3 日で、入院から人工呼吸器装着までは平均 3.0 日でありました。

自覚症状に乏しい高齢者等は受診が遅れがちであると思われ、患者の重症化を防ぐためにも、少しでも症状がある人は早期に受診相談するように啓発する必要があります。

以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは意見交換に移ります。

ただいまご説明のありました分析シートの報告内容に関して、何かご質問等ございますか。

よろしければ、都の今後の対応につきましてこの場で報告のある方いらっしゃいましたらお願いします。

よろしければ、ここで東京 i CDC 専門家ボードからご報告をいただきたいと思います。

賀来先生から総括のコメント、そして繁華街における滞留人口のモニタリング変異株スクリーニング、そして、ワクチンの接種状況についてご説明をお願いいたします。

【賀来先生】

まず分析報告の総括コメントさせていただき、西田先生にかわり滞留人口モニタリングについて、続いて変異株、最後にワクチン接種についてコメントさせていただきます。

まず分析報告へのコメントであります。

ただいま、大曲先生・猪口先生から新規陽性者の数が下げ止まり、人流の増加や変異株の影響により、今後増加比が 100%を超えることの懸念。

また、そのため再び医療体制の逼迫を招く可能性があるとの報告がございました。

これまで以上に人流の抑制、感染防止対策の徹底に努めていく必要があるかと思われま

す。

次、お願いします。

それでは、緊急事態宣言 7 週目の都内主要繁華街の滞留人口の状況につきまして、西田先生の資料をもとに、ご説明させていただきます。

次、お願いいたします。

要点をお示しします。

ゴールデンウィーク明け以降、レジャー目的の都内主要繁華街の滞留人口は、5 週連続で増加しており、宣言前の水準に戻りつつあります。

人流増加の影響で、新規感染者は下げ止まり、リバウンドのリスクが高まっており、人流増加を徹底して防ぐ必要があります。

次、お願いします。具体的なデータを示します。

具体的なデータですが、前週と比べますと夜間の滞留人口は 6%、昼間の滞留人口は 3%増加しており、宣言前の水準に近づきあります。

直近では、昼、夜ともに増加が止まり、横ばいで推移しております。

次、お願いいたします。

夜間滞留人口の継続的な増加の影響で、新規感染者数は下げ止まり傾向となっております。

次、お願いいたします。

続きまして、都内のN501Yアルファ株のスクリーニングの実施結果についてご説明いたします。

これまで、昨年12月からN501Y変異株スクリーニング検査を実施してきましたが、現在では、実施率は5割を超え、陽性率は約9割となっております。

都内でも、N501Y変異株アルファ株に置き換わっていることから、6月7日以降、検査の対象を、より感染力が強いと言われているL452R変異株デルタ株に順次切り換えております。

次、お願いいたします。

L452R変異株スクリーニング検査についてご説明いたします。

先週の会議から、赤字で示しましたように、新たに健康安全研究センターで9例、民間検査機関で3例を合わせた12例が新たに確認され、合計で43例となっております。

なお、5月31日の週以降、海外リンクのある事例は確認されていませんけれども、集団発生関連の事例も確認されていることから、このことだけをもって、市中に感染が大きく広がっている状況とまではまだ言えないと考えられます。

なお、都内での感染例は、国立感染症研究所のゲノム解析による確定例29例を合わせて、現在、合計72例となっております。

次、お願いいたします。

この図は、直近、6月7日から6月13日の都内の、変異株構成比率の推計を示しています。

今週はN501YとL452Rのスクリーニングの切り換えの始まったタイミングとなったことから、両方の変異株について実施したスクリーニング検査の結果を報告いたします。

こちらは、健康安全研究センターと民間検査機関において実施した結果です。

直近の割合は、N501Yが82.6%、L452Rが3.6%と、N501Y変異株の割合が依然として高い状況となっておりますが、英国では、すでにデルタ株L452Rの割合の増加が進んでおり、感染・伝播性がアルファ株N501Y以上であることがほぼ確実との、国立感染症研究所の報告もあることから、引き続き警戒をする必要があると考えます。

変異株であっても、基本的な感性予防対策は変わりません。

手洗い、しっかりとしたマスクの着用等の基本的な感染予防を徹底し、人と人との接触機会を減らすこと、継続した人流抑制を促していくことが重要です。

なお、引き続きこのデルタ株の状況把握に努めるとともに、東京iCDCのゲノム解析チームでも、状況を注視して参りたいと思います。

次の資料、スライド4枚目、そして次の資料、5枚目については、参考資料として、説明を割愛させていただきます。

次、お願いします。

この資料は、都内でのワクチンの接種の状況について説明を示したものです。

こちらは都内の接種1回目の累計接種人数を示しており、青字で示す高齢者、また、橙色

で示す医療従事者ともに接種が着実に進んでいることがわかります。

また、今後は、他の多くの世代の方や、職域での接種が開始されることから、接種人数が大きく増加していくものと思われます。

次、お願いいたします。

接種が先行する諸外国の例を見てみますと、イスラエルについては、昨年12月から、早いペースでワクチン接種を実施しており、現在では、新規感染者数が抑えられ、行動制限解除を行っています。

特に、1回目の接種割合が40%を超えたあたりで、また、2回目の接種割合が40%を超えた辺りで、感染者数の大きな減少が見られています。

次、お願いします。

イギリスでは、都市部での行動制限の効果も相まって、接種開始後1ヶ月程度で新規感染者が減少し、その後、その状態が継続しています。

ただ、変異株の影響もあり、抑えられていた新規感染者数に、今月に入り増加傾向が見られています。

次、お願いします。

これはアメリカのデータでありますけれども、アメリカにおいても、ワクチン接種率が増加するに従い、新規感染者数が確実に減少しています。

次、お願いいたします。

今後、東京都においても、一定程度の接種割合が達成できると、感染者数や重症患者数の減少が見込まれるものと思われます。

医療従事者のワクチン接種が広まってきた4月5月は、その前の1月から3月と比較して、病院集団発生事例において、クラスター規模の縮小や職員陽性者数で減少傾向が見られています。

これは院内感染対策の徹底と相まって、ワクチン接種の効果も見られつつあると考えることもできると思われます。

現在、都では、自治体、医療機関への支援、都独自の接種会場設置等に取り組んでいるところであり、引き続きワクチン接種の拡大に尽力していただきたいと思います。

なお、新型コロナワクチンは、2回接種後7日ほどを経過した頃から発症予防効果が出てくることとなりますが、接種した方からでも、未接種の方へ感染させる可能性が残ること等もありますから、基本的な感染予防対策に今後とも取り組んでいくことが望ましいと考えます。

私からは以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまの賀来先生からのご説明につきまして、何かご質問等ございますか。

よろしければ、会のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【知事】

はい。猪口先生、大曲先生、賀来先生、お忙しいところ、毎週ありがとうございます。

今回の「感染状況」、「医療提供体制」については、引き続きの最高レベル赤の総括コメントをいただいております。

感染状況については、新規陽性者数の7日間平均の増加比が約97%と下げ止まり、新規陽性者数の増加比は今後100%を超えると強く懸念があるということ。

年代別で、引き続き若年層の割合が高く、20代が新規陽性者全体の3分の1を占めていた。

感染経路については、家庭内感染の割合が最多であって、会食の割合が前回に続いて上昇していること、これらについて分析いただきました。

医療提供体制について、猪口先生からご報告であります。

医療機関は、依然として感染症対応に追われていて、負担が長期化していることや、また、重症患者数は減少しているが、再び増加に転じれば、医療提供体制の逼迫を招くことのご指摘がありました。

そして、賀来先生からのご報告で、繁華街の滞留人口については5週連続の増加、宣言前の水準に戻りつつ、最後ちょっと下がっていたのは、これが続くことを気をよくに期待したいと思いますし、またそうありたいと思いました。

それから、いわゆるデルタ株、インド株L452R変異株のスクリーニング検査において、新たな陽性例も報告されているということで、引き続きの警戒が必要とのこと。

また、ワクチン接種が先行している諸外国においては、非常にわかりやすい表をお示しをいただきました。

接種率上昇するにつれて、新規感染者数が減少としていること、この点であります。

今日、国において都への緊急事態宣言が解除をされ、まん延防止等重点措置への移行手続きが、現在進められているところであります。

現在の都の感染状況でございますが、今のご指摘がありましたように、予断を許さない厳しい状況であるとの認識でございます。

こうした認識のもとで、都としても、国の基本的対処方針、そして専門家の意見を踏まえまして、都の措置を対策本部会議で決定をいたして、そして、都民、事業者の皆様への要請、呼びかけについて、お示しをする予定でございます。今後の日程についてはまたご報告いたします。

これまでの都民、事業者の皆様のご協力で、このように数値は減ってはいるものの、ここで気を緩めてはいけないという、重要な時期でございます。

感染防止対策の徹底、そして、何としてでもここで、感染の再拡大を防いでいかなければならない。

引き続き皆様方のご理解とご協力をお願いを申し上げます。
以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして第50回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。